

ヒグマに注意！

不幸な事故を防ぐために

主要道小樽定山溪線 黄金橋付近
(平成24年4月12日撮影)

人口約190万人という大都市でありながら、豊かな自然が存在する札幌市。とりわけ南区は山と緑に囲まれ、自然の恵みを楽しんでいます。けれども一方で、南区はヒグマの生息域と市街地とが緩衝帯を持たずに接しているという特殊な地理的条件にあり、昨年度の出没件数は、過去最高となる160件にも上りました。

なぜヒグマの出没が増えているのか、いろいろな要因が考えられます。春グマ駆除の中止や山の木の実の不作なども要因と言われていますが、確かに言えることは、もともと南区はヒグマの生息地である山林と人の生活圏が接しているため、人とヒグマが一定の距離を置く必要があるということです。

ヒグマの生態を知ろう

大きさ(成獣)

体長 オス約2m、メス約1.5m

体重 オス150~400kg

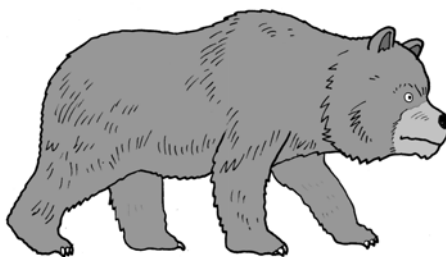
メス100~200kg

体長(鼻先から尾の付け根まで)



ヒグマの食べ物

フキ、ウド、クルミ、ドングリなど山菜や木の実を好むが、雑食性で餌となる動植物は150種類以上。大きな体を維持するため、春から秋にかけて、手に入りやすくおいしい食べ物に執着し、繰り返し大量に食べる。近年は、栄養価の高い農作物の食害が増えている。



目・鼻・耳

鼻(嗅覚)と耳(聴覚)が非常に発達している。目(視覚)はあまり良くない。

前足

5本指で長い爪を持っている。爪は食べ物を探するために穴を掘ったり、石を動かしたりと、日常生活のあらゆることに役立っている。

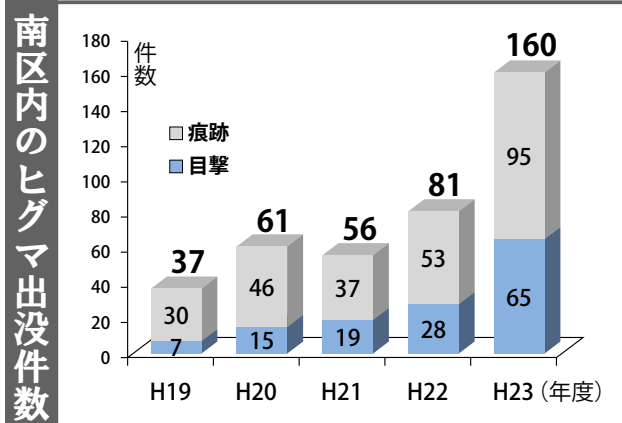
行動習性

逃げるものを追いかける。時速50kmくらいで走る。学習能力が高い。

行動範囲

オス 50~100km²

メス 約15km²



~ヒグマの痕跡を知るには?~

ヒグマの足跡



ヒグマのフン(左、中央)とタヌキのフン(右)

見分けられるかな?



ヒグマの足跡の大きさを測るときは、長さではなく、前足の横幅を測ります。ヒグマの大きさを推定するのに用います。



ヒグマは食べ物をうまく消化できず、食べた物がほとんどそのままフンとして出てくるので、食べた物のおいがします。

一方、よく間違えられるタヌキのフンは、臭いにおいがします。また、タヌキのフン自体は小さいのですが、1カ所に繰り返しフンをする習性があり、総量が多く、新しいフンと古いフンが混じります。